

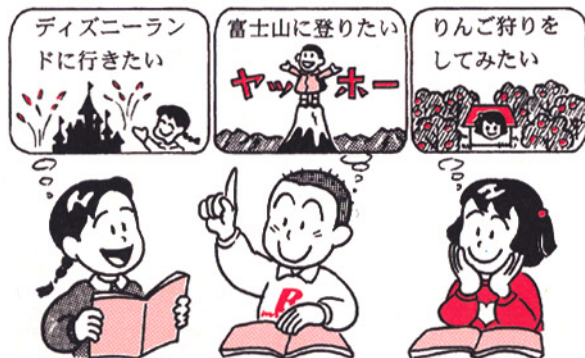
「地図帳だいすき人間に」

青森市立甲田小学校 舘山紀大

1. はじめに

子どものときから地図が好きで、外で遊ぶとき以外はずっと地図帳を眺め、行ったことのない遠い土地のようすを想像して楽しんでた私が教師になって一番しかったことは、「地図好きの子どもにしたい」ということだった。

しかし時代が進むにつれ、子どもたちとゆっくり地図帳を見ながらの社会科をしなくなった自分に気づき、数年前から心がけて地図帳に触れさせることを念頭にに入れて授業を展開することにした。



2. 全国を旅するぞ！

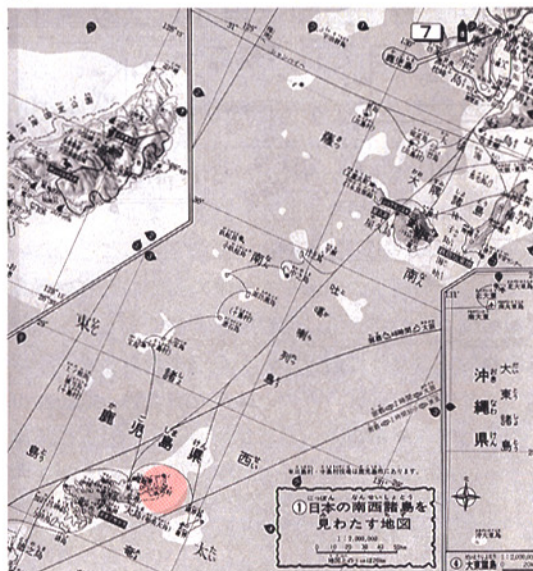
5年生の最後の単元日本の国土を学習した発展として、紙上旅行を計画した。数人の班を作り、自分たちが行きたいところを決め、青森からいろいろな交通手段を使って3泊4日の旅をするという企画だ。

- ①目的地を2～3個決める。
- ②交通手段を考える。
- ③時刻表を見て日程を決める。
- ④その土地の名物を調べる。

といった手順を決め、最終的には旅行の発表会をするということにした。

まず子どもたちは日本国内のいろいろなところの地図を眺めどこに行こうか話し合った。ディズニーランドをどうしても日程に入れたいとがんばっている子も

いれば、まったく未知の島巡りをしたいという子もいる。



(帝国書院小学校社会科地図(三訂版) p.7)

しだいに「東北本線で盛岡まで行って、新幹線に乗り東京に」と、交通手段の話し合いになり、今度は時刻表を持ち出して電車の時刻を調べる。「鹿児島から奄美大島まで航路があるから船で行こう」とはしたものの鹿児島新港からは13時間もかかってしまう。地図をじっくり見て「おやっ、飛行場があるぞ」と、今度は飛行機の時間を調べ始める。



地図の上ではほんの数cmなのだが、実は何百kmもあるということに気づき、日本の広さを実感する。これもこの学習のよいところである。

3. おわりに

基本的に子どもたちは地図が好きである。地名あてゲームなどにはどの子も食いついてくる。これからも、いろいろな機会に地図を見させ、地図を開くのをおっくうがらない子どもたちにしていきたいと思う。